



学ぶ楽しさを実感し、生き生きと伝え 研き合うことのできる生徒の育成

～「生きる力」を育むための研究実践～

大館市立下川沿中学校 教諭 田山 律子

1 はじめに

「伝え研き合う力」とは、言葉で伝え合い、かかわり合い、言葉を仲立ちとして、自分と人や事象との間に新たな関わりを築こうとする踏み出す力である。「伝え研き合う力」を育てることは、学び合い、他人との協調性、他人を思いやる心、感動する心、困難なことから逃げない心など情緒面での伸長にもつながり、キャリア発達にも大きく関わってくるものと考えられる。自分の考えを伝え研き合う言語活動を充実させ、「生きる力」を育成する授業を構築することで、「生き生きと伝え研き合うことのできる生徒」を育成したいと考え、日々研究を進めてきた。

2 研究実践

(1) 自分の考えを相手に適切に伝えたり、考えを研き合ったりする場の工夫

① ペアや小グループにおける話し合い活動の実施

全体の場では恥ずかしい、自信がないという生徒にも自由に表現活動ができるとともに、個に応じたきめ細かな支援が可能になる。

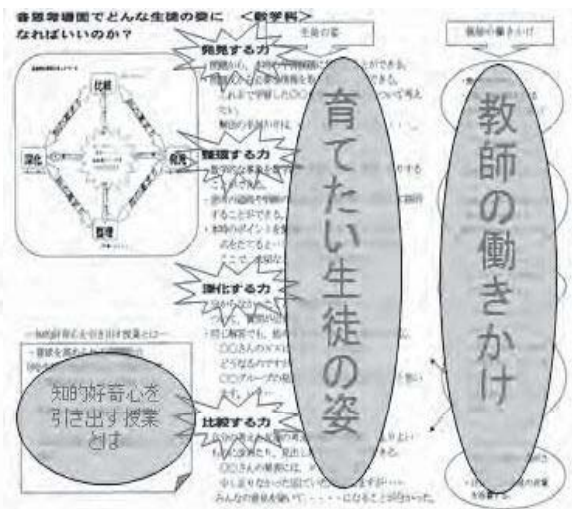
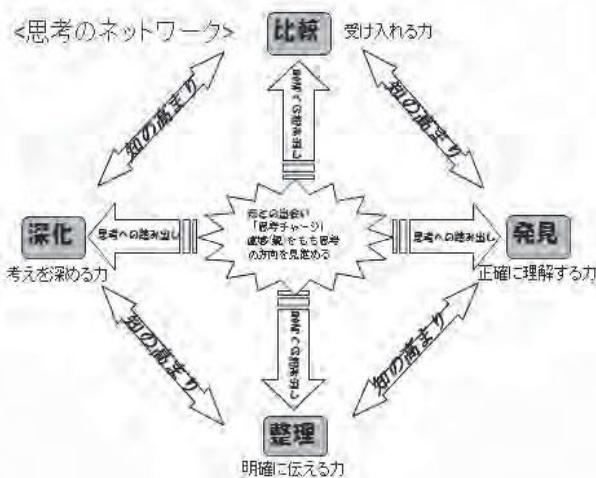
② 思考のネットワークの作成

「伝え研き合う力」を意図的・計画的に指導するために、各教科で目指す生徒の姿を具体的にイメージし、各教科ごとに言語の果たす役割と、どんな場面で教師がどのような働きかけをするのか、整理した。

伝え研き合う力

伝 え 研 き	コミュニケーションや感性・情緒の基盤
	<育てたい力> 聞く力 語彙を豊かに、表現する力 見る力 相手の思いや考えを理解し尊重する力 話す力 相手の話を受け止める力 書く力 相手の話に対して、状況に応じて的確に反応できる力 読む力
	知的活動（論理や思考）の基盤
	<育てたい力> 発見する力 事実や他者の意見を正確に理解する力 整理する力 事実等を整理し、明確に伝える力 深化する力 多様な観点から妥当性や信頼性を吟味し考えを深める力 比較する力 自分の考えになかったものを受け入れる力

参考資料：言語活動の充実に関する指導事例集
～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～〔中学校版〕 文部科学省

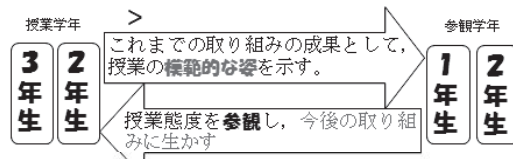


(2) 生徒相互による授業参観

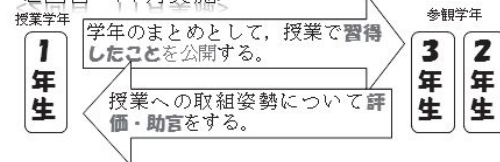
互いに話を聞く姿勢・相手意識をもった発表の仕方・高め研ぎ合う力などの観点に基づいて生徒同士で授業を参観し合った。年に2回実施。



<1回目 5月実施>



<2回目 11月実施>



(3) 学習意欲を刺激する課題(問題)提示の工夫

伝え研ぎ合う活動を活発にさせるためには、生徒が目的意識をもって主体的に授業に取り組めなければならない。そのためには、知との出会いにおいて、「やってみたい。知りたい。」「やらずにはいられない」という知的好奇心を引き出すことが重要ではないかと考えた。

<p>※理科 「うわー」「どうして」と思わせる実験演示</p> <p>茶碗に水を注ぐと底の置いた10円玉が見えるようになる</p> <p>予想</p> <p>学習課題の確認</p> <p>実験</p>	<p>※数学 ちぎれた問題提示</p> <p>ちぎれた問題提示</p> <p>ちぎれた問題提示「問題の続きは?」</p> <p>学習課題を確認</p> <p>コース選択</p> <p>自力解決→小グループで話し合い→全体で確認</p>
--	---

3 成果と課題

(1) 成果

各教科において、友達の発表をふまえてよさを見つけたり、小グループやペアでの活動を多く取り入れたりすることで、学習課題や問題に対して「事実等を整理し、明確に伝える力」が向上してきた。集会や学校行事等でも、積極的に自分の考えを述べようとする生徒が増えている。

「考えたい」「話し合いたい」といった知的好奇心(学ぶ意欲)を引き出す授業を工夫することで、生徒の意欲の高まりは表情等から十分感じられた。また、教師側も教師主導の授業の改善に努め、働きかけを工夫するようになっている。

(2) 課題

自分たちが考えたことや感じたことの発表は、自ら進んでできるようになったが、さらに「研ぎ合う」段階を目指すことが課題である。生徒が「やってみたいくなる」「やらずにはいられない」課題(問題)提示の工夫について、さらに研究を深め、知的好奇心(学ぶ意欲)を引き出す授業を構築することや、全体で考えを練り合う場の工夫をすることで、主体的な学びにつなげ、伝え研ぎ合う力を養っていきたい。